

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年10月6日（火）NO15 文責：校長 津田 幸一

学校 HP URL <https://www.nagasaki-city.ed.jp/ikeshima-h/>

中学校：合同体育祭 10/4

生徒会の発案で初の体育館開催でした。

体育館ならではの種目である、雑巾がけリレー。とても盛り上がりました。

伝統のソーラン節も、揃った動きを間近に見られるだけでなく、より迫力を伝える音の効果がありました。生徒の張った声と床に響く足音に感激しました。

本校の生徒も、練習の成果を十分に発揮しました。残念ながら、白組は優勝できませんでしたが、結果より過程です。

満足した表情で
体育祭を終えるこ
とができました。

言葉が変われば、運命が変わる。

言葉が変われば、行動が変わる。
行動が変われば、習慣が変わる。
習慣が変われば、思考が変わる。
思考が変われば、運命が変わる。

孟子の言葉です。マザーテレサにも同義の言葉があったようで、とても有名です。

さて、2学期の重点取組の1つに「美しい言葉遣い」を掲げました。9月から、子供たちは職員室に入室する際、「ありがとうございます」「お願いします」などの発声を練習しています。先生方のアイデアで始めた指導です。2か月が経とうとしていますが、ずいぶん堂に入ってきましたよ。あとは、普段に派生していけば◎。

美しい言葉遣いができるということは、その人の思考に謙虚さや素直さが根付くということだと思います。

2学期も折り返し。残りは2か月です。

多くのことに感謝を感じ、気持ちを言葉にできる池島っ子になってほしいと願っています。

美しい言葉遣いができる人は、運命が変わります。

11月：「あはは運動」強調月間に向けて

ま法の言葉

A（3年）

「あいさつ」といったら何を思い出すだろうか。おはようからおやすみなさい、こんにちは、こんばんは、お元気ですかなど、さまざまなものがある。あいさつとは、し書に「人とあった時取り交わす礼的な動作・言葉」と書いているが、決して礼的なものだけではなく、本当のあいさつというものは、気軽にでき、おたがい気持ちよくなるものだと思う。

ぼくは家族で山登りをした。はじめのうちは元気がいっぱい走り回っていたが、3時間も歩いたら、今にもたおれそうになるくらいつかれていった。まるで体がなまりのように重く、足は棒のようになっていた。その時、

「だいじょうぶ？」とすれちがったおじさんが声をかけてくれた。すると、そのとなりにいたお婆さんが、「もう少しで山のてっぺんやけん、がんばるんよ。」

といい、にこっとほほえんでくれた。ぼくは元気がよく返事をした。

今までつかれきっていたぼくの心ははればれとした。たった一言二言の短い言葉が、まるで魔法のようにぼくの心のつかれをふきとばしてくれたからだ。両親たちのあとをゆっくりと歩いてきたぼくは元気にちょう上を目指して思いっきり走っていった。

あいさつは本当にいいものだった。だからぼくも、ぼくのマ法の言葉でみんなに魔法をかけてあげたい。かといって、あいさつをするには、山しかできないわけじゃない。もっと身近なことから始めてみようと思う。

今、学校で行われている「オアシス運動」、それもあいさつの大切な一つだ。みんなの心をすんだものにさせるには、あいさつからはじまると思う。だから、みんなも一日のスタートをおはようできて、その日一日をすばらしいものにしてみようではないか。

(朝日作品コンクール入選作)

※Aくんの表記修正は津田

11月は、長崎市の「あはは運動」の強調月間です。気持ちのよいあいさつができるようにしたいですね。

作文のAくんが、体験から学び取った、挨拶の良さ。これは、Aくんの実感であり、揺るぎません。挨拶ができることは一生を助ける資質です。この「魔法の力」への気づきは、彼の挨拶をきくと変え、これからを支えていくことでしよう。

さて、「挨拶」の2つの漢字は、どちらも「こちらから近づくこと」という意味があるそうです。

漢字の意味からも、挨拶は「自分とかわす相手との心の距離を縮めること」であることがわかります。

コミュニケーションスキルの基本である挨拶を大切にす風土を、学校・家庭・地域が一体になって育てていきましょう！